

# 駒ヶ根民報

No.1337  
2015.3.15  
日本共産党  
駒ヶ根市委員会  
Tel 83-2969

## 過去最大予算で財政は健全か 農林業を地域経済の柱に ごみの資源化の推進

### 坂本やすひこ議員の一般質問

3月定例市議会一般質問は3月5日・6日に行われ、2人の共産党議員は、1日目の5番で坂本やすひこ議員、2日目の4番で竹村誉議員が質問しました。今回は坂本議員の報告です。

## 史上最高規模予算で過去の大型事業実施のような財政危機にならないか

**質問** 平成27年度一般会計予算は、159億9800万円、平成14年度予算を上回る史上最高になった。

ここ数年は大型事業を抑えて起債発行を抑制し、公債費は減少しピークは過ぎ安定化しようとしているが、この時期に過去最大の予算になっている。



財政の健全化の見通しは。建設事業費は2倍と大型事業が例年になく集中して単年度で実施して将来に影響を与えないか。

過去の大型事業を実施して、その後の財政運営を困難にしたことと、今回は違うのかどうか。かつては有利な借金とさかんに強調されたが以前の内容と違うかどうか

## 財政に配慮した予算で大きな支障はない

**市長答弁** 過去最大の積極的予算とした。事業選択と実施時期を調整し平成27年度精査し予算化している。

3ヶ年実施計画の中で27年度集中ふまえて予定通りとしている。

過去には毎年40から50億の建設事業があった。

現在普通市債は、毎年度平均で当時の半分であり、トータルでも半分になっている。財政に配慮した予算で大きな支障にはならないと判断している。

## 農林業を

### 地域経済の柱に

**質問** 安倍政権は農協改革により10年で農村所得倍増といいますが大暴落の米価対策に背をむけなんの対策もとらない。この政策に期待できるとの認識か。地元資源を活かした産品利用、加工・販売の事業発展の支援策はどうか。

**市長答弁** 農家の実態は、1・5ha以下の農業者は88%であり、当地域は大規模な農地集積はそぐわない。地域農業支え、営農センター方式で期待できることに取り組む。

## 二条大麥地元産の

### 構想と展望は

**質問** 市は二条大麥を中

心に地元産原料を使用した地ビールの開発など支援するとしているが、農地利用や地域振興に期待が持てるので是非実現してほしい。

品種、種子、栽培環境、栽培技術など課題はあると思うが展望はどうか

**市長答弁** いま地ビールの麦芽は地元で生産されていないが、大麥を地元産で使用したいという会社が現れた。栃木県で生産されているが課題はデンプンの質や温暖な気候でないと栽培できない。気候に適した品種の開発が必要。種子の提供受けられるよう試験栽培の実現にむけていく。

## 県産材利用拡大と

### 活用促進の支援策を

**質問** いま国産材が見直され補助制度もあり活用が進んでいる。県産材の住宅利用、公共施設への利用拡大の施策が必要。間伐材の引き出し、運搬、製材などへの支援策はどうか。

**市長答弁** 県産材の活用28・8%まで回復している。

市では32%と倍増している。木材加工施設、地域産材間伐促進に国・県の補助に市は15%加算補助し活用促進を図

っている。公共施設への利用は経塚保育園の建設に活用する。

## ゴミの資源化日本一の志布志市の経験を学び活かすために

**質問** 鹿児島県志布志市は再資源化率74・9%と8年連続日本1です。

ごみ焼却施設がなくごみを減らすために分別収集を徹底し、生ごみを堆肥化しています。各家庭から分別排出され指定されたバケツに入れステーションに出し週3回収集し堆肥化されます。大型処理機械を使わず乳酸菌を活用してかくはん処理されています。処理機械設備がないのでコストも軽減されます。

駒ヶ根市もこの取り組みに学んで、収集・処理方法に活かして生ゴミ堆肥化を進めるべきではないか。

**市長答弁** 市内全域分別資源回収してきた。地区での資源回収の強化をはかっている。ゴミの量は地道な取り組みをして年々減少している。

資源化率は25年度28・2%。生ゴミ堆肥化は200トン、志布志市参考に資源化を進める。ごみの減量・資源化に取り組む、資源化率34・3%目標にしている。